

皆さまから戴きましたご質問につきまして、以下のように回答いたします。

なお私は植物・造園関係の有資格者であります。建築・庭園史・郷土史などにつきましてはごく一般的な知見に基づいての回答と致します。

### ご質問事項

### 3、今回の散策会の内容等で、疑問や質問がありましたらご記入ください。

- ① 「工学部1号館」で見た葉アザミをモチーフにした理由を知りたい。
- ② 「懐徳館 庭園」から菊坂に川が流れていたのでしょうか、その場合いつごろまで流っていたのでしょうか？
- ③ いつから「懐徳館 庭園」の水が枯れてしまったのでしょうか。

### 回答いたします

#### ① につきまして、

- ・結論から申しますと、東京大学と「アカンサス（葉アザミ）」のデザインに関しては、東京大学と関連する特段の「理由」はありません。
- ・ギリシア時代に建造された神殿などをはじめ、古くからの列柱の頭部にはアカンサスの葉をデザイン化した装飾がなされていました。「コリント式」と呼びます。他にもシンプルな「ドリス（ドーリア）式」、渦巻の「イオニア式」などの様式がありました。
- ・これらの装飾デザインは、いわゆる“定番化”して、各国の古典的デザインの西洋建築に見られます。
- ・試みに、上野公園を訪ねました。J・コンドルの弟子である片山東熊の設計による「国立東京博物館」の「表慶館：1909（M42）年築」の正面の外観にはイオニア式（渦巻の装飾）が見られます。
- ・また「国立科学博物館日本館：1931（S6）年」の正面外観は、1階の列柱はシンプルな「ドリス式」2階にはやや簡略化した「コリント式」の装飾が見られました。



国立東京博物館 正面外観（部分）



国立科学博物館 正面外観（部分）



- ・東京大学のキャンパス内には震災復興時期の建築が多く残されていますので、これらの建築ウォッチングも楽しいですね。
- ・『東京大学 本郷キャンパスの百年』（1988（S63）年：東京大学総合研究資料館）も興味深い内容です。表紙（表・裏）には当時の航空写真がそのまま使用され、キャンパス内の全景を知ることが出来ます。

② つきまして、

- ・「懐徳館 庭園」の池、および懐徳館の敷地全体の変遷につきましては、自然散策会での配布資料の6P **付録2** に示した大まかな年表のとおりです。（\*当日の解説はありません。）
- ・一般のHP 閲覧者の方々のために、以下に年表部分を再録いたします。

- ① 1616（元和2）年 前田家が加賀藩下屋敷として徳川幕府より賜る。
- ② 1869（明治2）年 明治政府に返納後、約1万5千坪部分を明治政府より給される。
- ③ 1905（明治38）年 日本館竣工
- ④ 1907（明治40）年 **西洋館竣工**  
\*1908（明治41）年 夏目漱石『三四郎』連載が始まる。
- ⑤ **1910（明治43）年 庭園の造園工事（1月28日～5月）**  
\*この時の庭園が継承されている。  
**明治天皇の行幸（7月8日）**
- ⑥ 1928（昭和3）年 前田家が駒場に移転し、建物を受領。\*日本館を現在の懐徳館の位置に移築した。
- ⑦ 1935（昭和10）年 **西洋館を「懐徳館」と命名。**
- ⑧ 1945（昭和20）年 東京大空襲により、懐徳館（西洋館）、和風別館（日本館）が焼失。
- ⑨ 1951（昭和26）年 **懐徳館（西洋館ではなく日本建築として）を再建。庭園を修復。**
- ⑩ **2015（平成27）年 国指定文化財（名勝）となる。**（↑小石川植物園の木を移植）

- ・上記のように、「懐徳館 庭園」が新たに造成されたのは1910（明治43）年のことでした。  
この時にはすでに近代的な上下水道が整備されていますので、菊坂に流れ出ることはありません。
- ・また、2015（平成27）年に国指定文化財（名勝）となった時には東京大学のホームページにて、解説されています。（\*リンクを張れませんのでお手数ですが下記アドレスをご入力ください。）



アドレス（上）と、スマホの画面（右）



- ・また、文化庁のホームページには次の記述があります。



スマホの画面（左）と、解説表示の抜粋（下）

現在、築山の頂部には給水施設の一部が遺存するが、その経路は詳らかではなく、給水が途絶えた滝・流れ・池泉は枯山水となっている。築造当初に設えたと思われる2基の石燈籠、銅製の

③ つきまして、

- 以上のほか様々な事項によりますと、1910（明治 43）年に庭園が出来た時には上下水道による給排水が行われていたようです。（\* 築山の滝から流れて池に注いでいました。）
- その後、1945（昭和 20）年に東京大空襲にて建築物の焼失とともに庭園も被災した時に、池の給排水施設も破壊されたと推定します。
- そして 1951（昭和 26）年には日本建築としての「懐徳館」が再建され、庭園も修復されました。ただし、この時には給排水施設の復旧は行われなかったと思われます。

補足：「懐徳館 庭園」は、例年 10 月に開催される「ホームカミング・デイ」で一般に公開されます。平常時には、懐徳館の正門に向かって左手に続く石垣上の生垣に沿って進み、右折すると庭園専用の門があります。低い柵状の門扉なので、そこから園内の雰囲気や“垣間見る”ことが可能です。

以上、当日のアンケートにありました「ご質問」についての回答といたします。不満足な点がありましたら、どうぞお許しください。ありがとうございました。

令和 6 年 12 月 17 日

杉崎 光明



付録

明治 30 年（1897）当時の「三四郎池」です。

今日の安田講堂の裏側の低地に水路があり、池からの排水は理科大学の脇の低地を経て外に流れていたと思われます。